



性別や本社と現場などの場所による業務の差を無くし、誰でもどこでも働ける仕組み作りを目指す

株式会社エイブルフローは、平成2年に電気工事、機械器具設置工事などを行う建設業者として事業を開始し、平成19年にベルトコンベヤ事業を他社から承継し、現在は建設業と製造業の二事業を展開しています。

社長の西川英寿氏は8年前に社長に就任し、「ものづくりの精神を通し、産業の発展と環境保護の一助となり、社会に広く貢献する」という経営理念のもと事業を拡大してきましたが、近年の少子化の影響もあり、二つの大きな問題に直面しました。

第一の問題は男性の新卒採用・中途採用の困難化による人員不足です。第二の問題は事業拡大に伴い建設現場や製造現場での業務の進捗状況の把握が難しくなってきたことです。

そこで、今までのように男性にこだわらずに女性、外国人、シニア人材の採用を行い、平成29年にはシニア活躍推進宣言企業に認定されました。また、平成30年から留

学生や技能実習生を雇い、設計などの重要な仕事も任せられるようになりました。女性も採用を増やし、職種別に就業規則を変えるなど、女性が働きやすい環境を整えてきました。

そして、次に現場の業務進捗状況の「見える化」に着手しました。

男性従業員の業務を分業化、女性従業員でも行える仕組み作り

建設現場や製造現場での業務が多く、現場での経験や知識がないと備品の発注や人員配置もできないと言われていました。そのため、常に現場の男性従業員がこれらの業務を行っていましたが、近年は人員不足のため現場からの報告が滞り、本社において現場の業務進捗状況を把握することが難しくなり、発注の遅れ、誤発注、本社に請求書が届かないなどの問題も発生していました。

そこで、現場の経験がない本社の女性従業員でも、現場の男性従業員に代わって業務

ができる仕組みを考えました。まず、男性従業員が行っていた業務を細分化し、男性従業員でなくてもできる仕事を切り出し、次に、現場にいなくても同じように業務を行うための仕組みを検討しました。

現場を知らなくてもミスなく発注

例えば、現場で使用する備品の発注業務です。この業務は、発注の仕方も発注先によりバラバラで、備品の名前からどんな製品なのか分かりづらかったため現場の男性従業員が行っていました。そこで、発注する備品を全てコード化し、その統一されたコードにより発注先や品目が分かるようになりました。さらに、過去の発注実績をデータ化し、現場を知らなくてもミスなく発注できる仕組みを構築しました。担当の女性従業員に発注だけでなく、入荷した備品の在庫管理も任せることにより、現場の男性従業員や発注先に対し発注に関する提案ができるまでに成長しました。

この発注の「仕組み化」により、発注がミスなく行えるようになっただけではなく、業務の「見える化」を実現し、現場での業務進捗状況を本社にて滞りなく把握できるようになりました。

女性従業員への権限移譲が自信と自主性を生み出す

西川社長がこの「仕組み化」に基づく女性従業員への権限移譲による別のメリットを紹介してくれました。女性従業員に責任ある業務を与えることにより自信が生まれ、自ら進んで現場に行く女性従業員が増えてきたの

設計などの重要な業務も女性や外国人の従業員に任せている

です。男性従業員のみの建設現場に女性従業員がいることにより、殺伐としていた現場の雰囲気が和みました。さらに、女性従業員が男性従業員に対して声を掛け、体調を聞くなどの心配りをしてくれるため、男性従業員も本社が自分を気に掛けてくれているということを認識し始めました。そして、本社も男性従業員の体調などの変化を早めに知ることができます。その結果、男性従業員も時間的、心理的に余裕ができ、新しい業務のアイデアが出るようになりました。

元々は人員不足の解消と業務進捗状況の把握のために行った「見える化」という改革が、従業員の意識改革を生み、業績が向上するというポジティブなサイクルを生み出したのです。

社員一人一人との対話を大切に

社長の西川氏は、今後も性別や本社、工場、現場といった場所による業務の差を無くして、誰でもどこでも働ける仕組みを作り続けていきたいと言っています。そのため従業員一人一人と対話をし、権限移譲を更に進めていきたいと話しています。このような取組を重ねてきた結果、令和2年、久々に高校生が新卒で入社してきます。

西川社長は、株式会社エイブルフローは今後も社会に必要とされる企業でありたいと語っていました。

発注の「仕組み化」や女性従業員の職域拡大について熱く語ってくれた西川社長

